

四日市版コミュニティスクール報告書（令和4年度総括）

四日市市立内部小学校

校長 矢田 圭毅

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

内部小学校では、地域とともに歩む学校づくりをめざして、これまで多くの地域の方々、諸団体、保護者の方々に様々な教育活動に参加し協力していただけてきました。コミュニティスクール（運営協議会）はこれらの団体や諸活動を全体的に捉え、活動内容や今後の方向について協議し、学校と地域、家庭との結びつきをさらに強めていくための提言をしていくことをめざします。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

（1）教育活動の実践事例

地域と結びついた教育活動

- 1年 昔の遊び（長寿会）
- 2年 リース作り（内部っ子はげまし隊）
野菜作り（興農社）
- 3年 ホタル学習（内部ホタルの会）
地域探検（うつべ町かど博物館）
昔の暮らし（内部地区連合自治会長）
- 4年 剪定作業（内部っ子はげまし隊）
防災学習（内部地区自主防災協議会）
- 5年 お米の学習（地域農家・農園）
家庭科に係る体験学習（整理収納アドバイザー）
- 6年 戦争体験を聞く会（内部っ子はげまし隊）

4～6年 クラブ活動指導

・昔の遊び・ニュースポーツ教室・キッズ消防・茶道・楽しい小物づくりの全6クラブは、内部長寿会・総合型地域スポーツクラブうつべ☆スター体育指導委員・内部消防分団・地域住民のみなさん等のご協力を得て年間5回の活動を行っています。

見守りボランティア



内部地区三校二園 PTA 連絡協議会・通学路検討委員会では、自治会や地区市民センターとも情報共有し、子どもたちの安全対策を進めています。

また、通学路の安全確保や登下校指導では、内部学童見守り隊や PTA・各地区子ども会・住民ボランティアさんの協力



を得ています。

ボランティア団体「おはなし mam さん」



読書週間には、全学年で「おはなし mam さん」による本の読み聞かせを年3回行っています。また、おすすめ本コーナーを作って本の紹介をしたり、本の修理を行ったり、図書館まつりで渡すしおりを作成したりして、子どもたちが本により親しめるような活動を続けてもらっています。会員を増やすために、PTA ふれあい委員の方々にも読み聞かせの体験をしていただき、興味を持たれた方には会員になってもらう働きかけも行っています。今後も様々な活動を模索し、より豊かな実践になるよう努めます。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組みによる効果今年度もコロナ禍ではありますが、全保護者を対象とする様々な行事（授業参観、校内作品展、学校保健委員会等）では制約はあるものの、多くを実施することができました。その中で、コミュニティスクールの委員さんには、普段の授業の様子や児童の作品を参観したり、学校保健委員会に参加して学校医の講演を聞いたり、スライド紹介で学校の様子を知っていただいたりすることで意見交流を行いました。その結果、以下のようにたくさんのご意見をいただき、全職員で共有するとともに、学校だよりにて保護者へも伝えることができました。



・学びの一体化の取組みを通じた保幼小中間の情報交換や授業交流を積極的に行うとともに、地域との共通理解も深め、地域全体で子どもたちの育ちを見守っていきたい。今年度は7月に内部中校区で合同コミュニティスクールを行ったが、地域全体で見る良い機会となった。コミュニティスクールが先導して、学校の教育活動充実のため、動いていきたい。ぜひ、声をかけて欲しい。

・高学年の教科担任制は定着し、中学校に向けた良い取組みとなっている。先生たちの得意分野が生かされ、子どもたちはいろいろな先生に教えてもらうことで楽しく学ぶ姿が見られる。理科の専科や算数の少人数授業も継続して欲しい。

・授業参観をすると、多くの学級でタブレット端末を使った学習活動が取り入れられていた。まずは児童がタブレットを活用する場が必要である。問題が送られたり書き込んだり調べたりする活動が見られた。今後は課題解決するために必要な情報を選択する活動を中心にするように検討して欲しい。

・タブレット学習が進むと、情報モラル面での心配や友達と



の関わりが希薄になるように感じる。先生たちは子どもたちに繰り返し指導し、家庭とも連携して取り組んで欲しい。

・「おじいさんおばあさんありがとう集会」は、毎年地域に住む高齢者の楽しみともなっていて、地域と学校をつなぐ大切な場である。今年度もコロナ禍で中止となったが、来年度以降はできれば実施し、継続して行って欲しい。

・コロナ禍のため、運動会、記録会など学校行事・教育活動の簡素化や中止はやむを得ないが、全校での取り組みや活動自身の意義は大切にしたい。今年度は3～6年生の社会見学や授業参観の実施、6年生を送る会のリハーサルを実施できたことは評価できる。今後も何もかもを簡素化するのではなく、子どもにとって何が大切であるかを考え、充実させるところは充実させ、工夫して取り組みを進めて欲しい。

・コロナ禍、雪かき、登校指導など先生たちの指導する範囲は広く、その負担は大きい。児童の指導に専念できるように地域の方でできる範囲内で協力をしていきたい。

今年度の学校保護者アンケートでも、「子どもは元気よく学校へ行きますか」について95%の方が肯定回答をいただきました。保護者の方は、子どもの姿を通して学校への信頼を深めています。特に、コミュニティスクール（運営協議会）が学校と地域、保護者のパイプ役となり、学校運営全体について助言や意見を述べていただくことで、保護者の満足度もさらに高まっています。



3 今後に向けて

コミュニティスクール（運営協議会）では、授業参観や学校公開の機会や日常の学校・地域での様子をとらえて、学校教育活動に対するさまざまなご意見やご助言をいただいています。コミュニティスクール（運営協議会）の取り組みが、地域や家庭にもっと広く理解されていくように情報発信をしていくとともに、学校での教育活動が保護者からさらに高い評価をしてもらえるように下記のことに取り組んでいきたいと思えます。

- ・ コミュニティスクール委員の方々の協力を得ながら、学校ボランティア（書写・音楽・家庭・給食等）を組織し、募集を行っていきます。特にタブレットについてサポートできる方を募集していきます。
- ・ 来年度も学校医を招聘し、子どもたちのよりよい成長に向けて、コミュニティスクール（運営協議会）委員と教職員・と保護者が一緒になって意見交流を図ります。
- ・ 来年度本校は創立150周年を迎え、記念事業を予定しています。コミュニティスクール委員の方々には記念事業の実行委員を兼ねて記念行事の準備や運営へ協力いただき、子どもたちにとってこの節目が記憶に残り、「内部地区の一員でよかった!」「内部地区の未来は自分たちで担うんだ!」という思いが持てるように努めていきます。
- ・ 来年度も中学校区三校合同運営委員会を行い、内部地区全体で子どもたちを育ていけるよう、内部中学校区で連携を取りながらさまざまな行事に取り組んでいきます。